

◎調査依頼の経緯

埼玉県〇市に住むEさんが、コナムシ^シを見つけたのは、近所のスーパーで買い求めた食パンの中だった。お店に伝えるか、製パン会社に問い合わせるか、はたまた保健所に届け出るべきなのか、迷ったすえにEさんは保健所にくだんのパンを持ち込むことにした。

保健所に持ち込む旨を製パン会社に連絡をしたところ、電話を受けた担当者がただちに、横浜にある私の事務所の電話のベルをならしたのだった。「すぐ現場にいっしょに行ってもええませんか」。至急の同行を依頼され、Eさんの自宅に駆け付けることとなった。

◎用心が仇

Eさんと簡単な挨拶を済ませたあと、さっそくコナムシ^シを発見時の状況を詳しく聞くことにした。

「昨日の夕方、いつものスーパーで食パンを購入しました。帰宅してすぐに、食品の保管用として使っているお茶箱（写真1）に食パンを入れ、今朝取り出して袋を開けました。そうしたら、スライスされた食パンのあいだに生きたコナムシがたくさん……」

ふだんからよく食べている食パンだったので、保健所に届けることにしたという。「一応、メーカーにも連絡をしておいたほうがいいと思って……」。食パンを見せてもらったところ、7匹のノシメマダラメイガ *Plodia interpunctella* (hübner) の幼虫（写真2）がいた。チョコレートに紛れ込む虫としていちばん最初に疑われ、外国製タバコに潜んでいた、あの虫だ。

Eさんは昔から、ノシメマダラメイガのことを、お米に虫が出ると粉っぽくなるから「コナムシ」と呼んでいた。古い食器棚には小さな虫が入り込む隙間があるので、用心のためにびったりフタが閉まるお茶箱を常用してきたとのこと。

パンを調べ、経緯も聞いたのち、念のためお茶箱を調べさせてほしいと申し出て、Eさんの了解を得てお茶箱をじっくり観察することにした。お茶箱は、薄暗い物陰に置かれていた。箱の中には、乾麺、パスタ類、小麦粉、即席スープ、小豆、ビスケット、煎餅、海苔、かつお節、砂糖、食塩などが入っていた。開封したものはポリ袋に入れて収められていた。虫の発生源は見当たらない。

さらに見ていくと、お茶箱の手前の部分、死角になりがちなところに、ポリ袋に入った残り3分の1程度となったビスケットが見つかった。取り出してよく見ると、ポリ袋の内側に

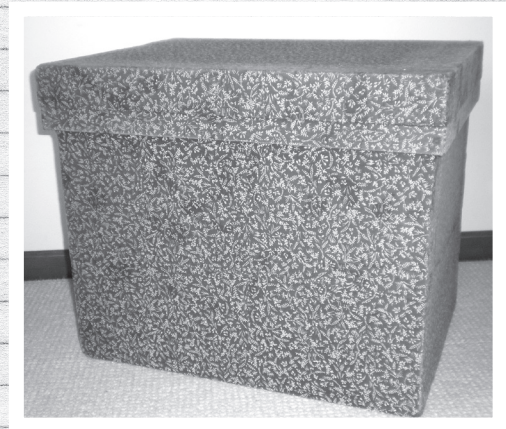


写真1 食品保存用に使っていたお茶箱。密閉はされるのだが……。



写真2 ノシメマダラメイガの老熟幼虫。
1ミリ方眼の上で撮影したもの。

は、ガ類の幼虫が出す吐糸が細かく張りめぐらされ、ポリ袋には数か所の穿孔があった。ノシメマダラメイガの発生源はこれだったのだ。

Eさんは、お茶箱の中の食品を出し入れするときは、用心のあまり、フタの開け閉めをなるべく早くすることを心掛けていたという。そのために、箱の手前の死角になりがちな部分を見落としていたのだった。

◎都市型の虫

コナムシという呼び名でノシメマダラメイガの幼虫を知っていたEさんだったが、その幼虫が包装紙などかんとんに食い破り、プラスチックや麻雀の牌にも穴をあける大顎（口器）をもつ強力な虫だと知って驚いていた。

「お茶箱を明るいうちに移し、少なくとも1か月に1度は箱の中を点検すること」とEさんに伝えて、お宅をあとにした。食パンの製造ラインに問題がなかったことがわかり、製パン会社の担当者も一安心。これにて今回の事件は一件落着となった。

しかし、ノシメマダラメイガの事件はこれからも頻繁に起こるであろう。なぜなら、そもそも、いたるところにいるのだが、人の暮らしのほうに変化をして、ノシメマダラメイガを